

授業科目と教育課程（カリキュラム）

1 教養課程と専門教育課程

教養課程	幅広い分野の基礎的な教養を修得するために設けられているカリキュラムで、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目で構成されています。1・2年次で中心的に学習します。
専門教育課程	専門的な知識や技能を体系的に修得するために設けられているカリキュラムです。この専門知識の集大成として、卒業論文があります（文学部では必修科目、法学部・経済学部では選択科目となります）。

2 授業科目の種類

◆ 授業科目は以下に分類されます。履修する際はその違いを理解し、教育課程表（カリキュラム表）にしたがって学習を積み重ねてください。

必修科目	・必ず修得しなければならない科目です。
選択必修科目・スクーリング選択必修科目	・設置科目の中から条件を満たすように選択して履修する必要がある科目です。 ・各科目群の中から卒業要件を満たすように履修します。
選択科目	・自由に選択して履修できる科目です。 ・科目群の中から卒業要件を満たすように履修します。
スクーリング必修科目	・必ずスクーリング学習で修得しなければならない科目です。
公開科目	・学部学科を問わず履修できる専門教育課程の選択科目です。 ・開講科目によって履修学年が異なる場合があります。 ・8科目16単位まで卒業所要単位として履修できます（開講科目によって履修上限回数異なる場合があります）。 ※「公開科目」の開講はスクーリングのみです。「公開科目」として開講される科目は、『法政通信』記載の各スクーリング時間割を確認してください（主に、地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります）。

※「履修・成績通知書」における「教職専門科目」「教科専門科目」は、教員免許に関する科目の分類です。卒業所要単位には算入されません。
※「履修・成績通知書」における「その他専門科目」は、以前の学籍とは異なる学科に復籍・再入学した際に以前の学籍で修得した科目や資格課程科目などの分類です。卒業所要単位には算入されません。

3 科目構成単位

- ◆ 開講科目に付されている単位を「科目構成単位」といいます。原則として、「科目構成単位」を満たすように学習を進めます。科目構成単位の充足方法については [p.31](#) を参照してください。
- ◆ 各科目の単位は、構成単位を満たして修得するまで、原則として卒業所要単位に算入されません。
- ◆ 原則として、科目構成単位を満たした科目は再履修できません。詳細は、教養課程および各学科の専門教育課程の教育課程表（カリキュラム表）に併記されている注意点を確認してください。

授業科目について理解したら、どの科目を学習することができるのかを教育課程表で確認しましょう。教育課程表には、法政大学通信教育部が設置している科目と、その科目の単位数が一覧で記載されています。

各科目の学習内容、到達目標、成績評価基準等が記載されたWebシラバス [▶ p.13](#) を確認しながら教育課程表を確認すると、科目選びをスムーズに進めることができます。

どの科目を学習することができるのかは、入学種別、入学年次や所属学科によって異なりますので、下記の表を参照しながら該当する教育課程表を確認すると良いでしょう。



※編入学生の単位認定は、出願時に提出された書類をもとに、入学時に行います。
※どの科目が単位認定されているのかを入学許可通知に同封されていた「履修・成績通知書」またはWeb学習サービス「成績情報」にてよく確認してから、科目選びを行ってください。

法政大学Webシラバス

法政 シラバス



入学種別ごとの修得すべき（卒業に必要な）単位一覧

入学種別	入学年次	卒業に必要な単位	
		教養課程	専門教育課程
本科生	1年次入学	▶ pp.44-45	▶ p.46~ 所属学科毎のカリキュラム表を参照してください。
	2~4年次入学* ・2~3年次編入学 ・本学通学課程2~4年次離籍者 (2~4年次編入学した場合)	▶ pp.44-45 教養課程科目（一般教育科目・外国語科目・保健体育科目の3分野）のうち、入学時に卒業所要単位分を認定されている分野は履修不要です。	
	学士入学*	-	
科目等履修生 (選科生)	-	▶ p.44~ 教職課程や資格課程、一部のスクーリング開講科目を除き、全ての課程表の科目を履修可能です。	
科目等履修生 (教職生)	-	教職課程表（「教員免許状取得の手引き」）を参照	

※一部単位認定・免除あり

- ◆ 卒業までにスクーリング学習で30単位以上（一部単位認定・免除あり）の修得が必要です。
- ◆ 教員免許状取得希望者は [▶ pp.84-88](#) および「教員免許状取得の手引き」を確認し、教職課程表を参照してください。適用法令・所属学科・入学年度により教職課程表が異なります。教職課程表を間違えないように注意してください。
- ◆ 資格課程の受講希望者は [▶ pp.89-95](#) を参照
- ◆ 進級・卒業要件については [▶ pp.66-69](#) を参照

教育課程表（カリキュラム表）

1 教養課程（全学部学科共通）

一般教育	36 単位	人文分野	8 単位以上
		社会分野	8 単位以上
		自然分野	8 単位以上
外国語	1 外国語 4 単位（うちスクーリング 2 単位以上）		
保健体育	2 単位		
合計	42 単位		

一般教育科目

履修学年	区分	分野	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	人文	文学	4	8 単位以上
			西洋史	4	
			日本史	4	
			哲学	4	
			東洋史	4	
		論理学	4		
		社会	法学（日本国憲法）	2	8 単位以上
			法学	2	
			経済学	4	
			人文地理学	4	
			自然地理学	4	
			政治学概論	4	
			社会学	4	
			文化人類学	4	
			心理学	4	
			自然	数学 1	
		数学 2		2	
		数学 3 ⑤		2	
		生物学 1		2	
		生物学 2 ㊸		2	
		生物学 3 ⑤		2	
		化学 1		2	
		化学 2		2	
		化学 3 ⑤		2	
		物理学 1		2	
		物理学 2		2	
		物理学 3 ⑤		2	
選択	その他	基礎特講 ⑤	2	4 単位まで履修可	
		放送大学単位認定科目		10 単位まで認定可	

⑤はスクーリングのみの開講科目
㊸はメディアスクーリングのみの開講科目

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目（通信学習時）

外国語科目

履修学年	区分	種類	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	英語	英語 2	2	いずれか 1 外国語 4 単位 （うちスクーリング 2 単位以上 （1 単位×2）を含む） ※詳細は下記「c.」を参照
			英語 3	2	
			英語 5 ⑤*	1	
		独語	独語 1	2	
			独語 5 ⑤*	1	
			仏語	仏語 1	
仏語 5 ⑤*	1				

⑤はスクーリングのみの開講科目
※複数回の受講が可能

保健体育科目

履修学年	区分	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1～	選択必修	健康・スポーツ科学概論	2	いずれか 1 科目 2 単位
		スポーツ総合演習 ⑤	2	

⑤はスクーリングのみの開講科目

教育課程表（カリキュラム表）の注意点

- 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません。また、原則として科目構成単位を超えて履修することはできず、卒業所要単位にもなりません。
- 一般教育科目
 - ▽ 人文・社会・自然の 3 分野からそれぞれ 8 単位以上を選択し、全体で 36 単位となるように履修してください。
 - ▽ 36 単位を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれません。
 - ▽ 「基礎特講」は、2 回 4 単位まで卒業所要単位として履修できます。
 - ▽ 放送大学で修得した単位（外国語科目と保健体育科目を除く）を最大 10 単位まで、その他分野の単位として認定します（【▶ p.137 「放送大学での修得単位の認定」】参照）。
 - ▽ 自然分野について、2012 年度以前カリキュラム設置科目の科目構成単位を充足済みであっても、2013 年度以降カリキュラム設置の同種科目を履修できます。ただし、メディアスクーリングで修得した場合、同一科目を再度メディアスクーリングで履修することはできません。
 - また、自然分野の卒業要件（8 単位以上修得）の判定においては、1 つの授業科目種別につき、6 単位まで有効とします（例：「数学」〔4 単位〕「数学 1～3」〔各 2 単位〕をすべて（計 10 単位）修得した場合、自然分野としては、6 単位まで有効とする。一般教育科目合計としては、10 単位すべて有効とする）。
- 外国語科目
 - ▽ 英語・独語・仏語のうち、いずれか 1 外国語を選択し、スクーリング修得単位 2 単位以上を含み 4 単位となるよう履修してください。4 単位すべてをスクーリングで修得することも可能です。
 - 例：英語 2 または英語 3（2 単位）+ 英語 5（1 単位）× 2 = 4 単位
英語 5（1 単位）× 4 = 4 単位 等
 - ▽ 上記要件を満たした外国語と同一外国語を再履修することはできません。
 - ▽ 2 外国語以上履修しても、1 外国語しか卒業所要単位に含まれません。
 - ▽ 1 外国語 4 単位を超えて修得した単位は卒業所要単位に含まれません。
- 保健体育科目
 - ▽ 「健康・スポーツ科学概論」または「スポーツ総合演習」のいずれか 2 単位が必修です。
 - ▽ 2 単位を超えて修得した単位は、卒業所要単位に含まれません。
- すでに卒業所要単位を充足済み（3 年次編入学および学士入学時に「認定」・「免除」された単位を含む）の場合は、単位を修得しても卒業所要単位に算入されません（スクーリング修得単位にのみ算入されます）。
- 3 年次編入学および学士入学において、「認定」・「免除」された科目を通信学習で履修する場合は、科目登録および科目登録料の振り込み（1 単位あたり 3,000 円）が必要です。詳細は各学部担当までお問い合わせください。
- 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、【▶ p.60 「3 2013 年度からの変更点（抜粋）」】を参照してください。

2 専門教育課程

1. 法学部法律学科

選択必修	科目構成単位を満たし 8 科目	32 単位
	8 科目 32 単位を超えた単位	50 単位
選択	卒業論文を含む	(卒業論文を選択しない場合は 54 単位)
合計		82 単位 (卒業論文を選択しない場合は 86 単位)



※ (*) 印以外の専門教育科目でスクーリングでの修得単位8単位を含む

選択必修科目

履修学年	授業科目	構成単位
1~	民法総則	4
2~	憲法	4
	物権法	4
	刑法総論	4
3~	債権総論	4
	債権各論	4
	商法総則・商行為法	4
	会社法	4
	刑法各論	4
	国際法総論	4
	行政法	4
	行政救済法	4
労働法	4	
4	民事訴訟法	4
	刑事訴訟法	4
	国際法各論	4

選択科目

履修学年	授業科目	構成単位	
2~	刑事政策	4	
3~	教育法	4	
	親族法・相続法	4	
	手形法・小切手法	4	
	保険法・海商法	4	
	日本法制史	4	
	西洋法制史	4	
	労使関係論	4	
4	民事執行法	4	
	社会経済学 A (*)	2	
	社会経済学 B (*)	2	
	経済政策論 A (*)	2	
	経済政策論 B (*)	2	
	卒業論文	4	
⑤	1~	総合特講 (*)	2
	2~	法律学特講	2
		英米法	2
		法哲学	2
		政治学	2
		情報学入門 (*)	2
	3~	総合外国語特講 (*)	2
		スポーツ特講 (*)	2
		(他学部・他学科公開科目) (*)	2
		法律学演習	2
倒産法		2	
⑧	1~	データサイエンス入門 A (*)	2
		データサイエンス入門 B (*)	2
		データサイエンス応用基礎 A (*)	2
		データサイエンス応用基礎 B (*)	2
		データサイエンス応用基礎 C (*)	2

⑤はスクーリングのみの開講科目
⑧はメディアスクーリングのみの開講科目

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目 (通信学習時)

教育課程表 (カリキュラム表) の注意点

- 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません (ただし例外があります。詳細は次項を確認してください)。また、原則として科目構成単位を超えて履修することはできず、卒業所要単位にもなりません。
- 選択必修科目
科目構成単位を満たし、8 科目 32 単位の修得が卒業要件です。8 科目 32 単位を超えて修得した選択必修科目枠内の単位は、選択科目の単位として卒業所要単位に算入します。
また、この**選択必修科目 8 科目 32 単位の卒業要件を満たしていれば、科目構成単位を満たしていない選択必修科目、選択科目の単位 (4 単位のうち 2 単位しか修得していないスクーリング科目の単位) も卒業所要単位に算入します。**
- スクーリング必修単位
法学部では特にスクーリング必修科目を設けているわけではなく、教育課程表 (カリキュラム表) の中の*印の科目を除いた専門教育科目 (選択必修科目・選択科目) から、8 単位をスクーリングで修得することを定めています。
- 「政治学」は 2 回 4 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「法律学演習」は 4 回 8 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「法律学特講」は 4 回 8 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「総合特講」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
「公開科目」の開講は、『法政通信』などで発表します (主に地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります)。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は、開講科目によって履修学年・履修上限回数異なる場合があります。
詳細は『法政通信』を参照してください。
- 「卒業論文」を選択する場合、事前に「卒業論文一般指導」を受講する必要があります。詳細は [p.70](#) を確認してください。
- 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、[\[p.60 \[3 2013 年度からの変更点 \(抜粋\)\] \]](#) を参照してください。
- 2023 年度より「情報科学実習」が「情報学入門」に名称変更しました。

※カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーは以下の Web サイトから確認できます。

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/law/subject/cultural.html>



日本文学3コース制について

日本文学では、文学・言語・芸能文化という3つのコースを定めます。これにより、学びたい分野を体系的に学習できるだけでなく、日本文学に隣接する諸分野についても研究することができます。

この3コース制は、研究分野を明確に区分するものではありません。卒業論文までの道のりを示した、一種のモデルコースとなります。

(1) コースの決定について

コースは、卒業論文のテーマが決まったとき、つまり卒業論文第1次指導時に確定します。この指導で卒業論文のテーマを(源氏物語)や(志賀直哉)としたら文学コース、(若者言葉)や(方言)としたら言語コース、(能楽)や(本阿弥光悦)としたら芸能文化コースとなります(定員はありません)。1、2年次にコース決定を行うことや、コースを決定するうえで試験や選抜を行うことはありません。卒業論文執筆までのコースの科目も自由に履修することができます。

(2) コースの概要について

- a. 文学コース…古代から現代までの文学作品・作家を中心に研究します。
- b. 言語コース…日本語の歴史、現代語の諸相など言葉を中心に研究します。
- c. 芸能文化コース…日本の芸能・芸道など日本文化を幅広く研究します。

教育課程表 (カリキュラム表) の注意点

- a. 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません。また、原則として科目構成単位を超えて履修することはできず卒業所要単位にもなりません。
- b. 「卒業論文」を受講するには事前の指導が必要です(卒業論文第1次・第2次指導)。詳細は **p.74** を参照してください。
- c. 選択必修科目 20 単位以上、選択科目 24 単位以上(選択必修 20 単位を超えた単位を含む)を修得し、卒業所要単位 82 単位を満たすようにしてください。
- d. 「総合特講」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- e. 「(他学部・他学科公開科目)」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。「公開科目」の開講は、『法政通信』などで発表します(主に地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスケーリングでの開講となります)。
- f. 「(他学部・他学科公開科目)」は、開講科目によって履修学年・履修上限回数異なる場合があります。詳細は『法政通信』を参照してください。
- g. 「書道実技」の履修方法は以下の表のとおりです。

修得方法	内訳 (添削課題+スクーリング)	
通信学習 (添削) + スクーリング	添削 10 課題	+ スクーリング受講およびスクーリング試験合格 (1 単位)
スクーリング+スクーリング	スクーリング受講およびスクーリング試験合格 (1 単位)	+ スクーリング受講およびスクーリング試験合格 (1 単位)

※ 通信学習 (添削) のみで2単位の修得はできません。
 ※ 書道実技の通信学習 (添削) には次のとおり履修期限が設けられています。
 本科生の場合：書道実技の課題をはじめ提出した年度を含めて3年間 (翌々年度の1月 (該当年度成績となる最終のレポート締切日) まで)。
 科目等履修生の場合：「科目登録届」を提出した年度を含めて3年間 (翌々年度の1月 (該当年度成績となる最終のレポート締切日) まで)。
 ※ 履修期限内にすべての課題に合格できなかった場合、あらかじめすべての課題を提出し直す必要があります (科目等履修生については、「科目登録」をあらためて行う必要があります)。
 ※ 「通信学習 (添削) + スクーリング」の修得方法について通信学習 (添削)、スクーリングの開始順序は問いません。同時進行でもかまいません。

- h. 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、**p.60** 「3 2013 年度からの変更点 (抜粋)」を参照してください。
- i. 2023 年度より「情報科学実習」が「情報学入門」に名称変更しました。
- j. 2024 年度より、「論文作成基礎講座 I」が「レポート作成基礎講座」に、「論文作成基礎講座 II」が「卒業論文作成講座」に名称変更しました。

※カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーは以下の Web サイトから確認できます。

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/japanese-literature/subject/cultural.html>



2. 文学部日本文学 (文学コース)

必修	20 単位
選択必修	20 単位以上
選択	24 単位以上 (選択必修 20 単位を超えた単位を含む)
卒業論文 (卒業論文第 1 次・第 2 次指導が必修)	8 単位
合計	82 単位

必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1~	日本文学概論	4	20 単位
	日本語学概論	4	
2~	文学概論	4	
	日本文学史 I	4	
	日本文学史 II	4	
4	卒業論文	8	8 単位

選択科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
2~	中国文芸史☆	4	24 単位以上
	日本語史	4	
	日本文法論	4	
	日本芸能史	4	
3~	日本美術史	4	
	西洋美術史	4	
	社会思想史	4	
	比較文学	4	
⑤ 1~	書道史	2	
	書道実技	2	
	レポート作成基礎講座	2	
⑤ 2~	総合特講	2	
	情報学入門	2	
⑤ 3~	総合外国語特講	2	
	スポーツ特講 (他学部・他学科公開科目)	2	
M 1~	卒業論文作成講座	2	
	データサイエンス入門 A	2	
	データサイエンス入門 B	2	
	データサイエンス応用基礎 A	2	
	データサイエンス応用基礎 B	2	
	データサイエンス応用基礎 C	2	

⑤はスクーリングのみの開講科目
 Mはメディアスクーリングのみの開講科目

選択必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1~	日本文学研究特講・上代☆	4	20 単位以上
	日本文学研究特講・中古☆	4	
	日本文学研究特講・中世☆	4	
	日本文学研究特講・近世☆	4	
	日本文学研究特講・近代●	4	
	日本文学研究特講・漢文☆	4	
2~	日本文学研究特講・現代●	4	
	日本文学研究特講・言語	4	
⑤ 2~	日本文学研究特講・韻文●	2	
	日本文学研究特講・演劇	2	
	日本文学研究特講・児童文芸●	2	
	日本文学研究特講・沖縄文芸	2	
	日本文学研究特講・特域	2	
	日本文学研究特講・日本学	2	
	日本文学研究特講・音楽芸能史	2	
	日本文学研究特講・祭りと芸能	2	

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目 (通信学習時)

(注) 「書道実技」は、通教テキストと指定市販本の 2 冊を使用します。

(注) 表中の科目名の右側にある☆は、当該コースにおいて履修が推奨される科目であることを示します (古典文学を卒業論文のテーマに考えている方が対象)。

(注) 表中の科目名の右側にある●は、当該コースにおいて履修が推奨される科目であることを示します (近現代文学を卒業論文のテーマに考えている方が対象)。

3. 文学部日本文学科（言語コース）

必修	20 単位
選択必修	20 単位以上
選択	24 単位以上（選択必修 20 単位を超えた単位を含む）
卒業論文（卒業論文第 1 次・第 2 次指導が必修）	8 単位
合計	82 単位

必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位	
1 ~	日本文芸学概論	4	20 単位	
	日本語学概論	4		
2 ~	日本文芸史 I	4		
	日本語史	4		
	日本文法論	4		
4	卒業論文	8		8 単位

選択必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1 ~	日本文芸研究特講・上代	4	20 単位以上
	日本文芸研究特講・中古	4	
	日本文芸研究特講・中世	4	
	日本文芸研究特講・近世	4	
	日本文芸研究特講・近代	4	
	日本文芸研究特講・漢文	4	
2 ~	日本文芸研究特講・現代	4	
	日本文芸研究特講・言語●	4	
⑤ 2 ~	日本文芸研究特講・韻文	2	
	日本文芸研究特講・演劇	2	
	日本文芸研究特講・児童文芸	2	
	日本文芸研究特講・沖縄文芸	2	
	日本文芸研究特講・特域	2	
	日本文芸研究特講・日本学	2	
	日本文芸研究特講・音楽芸能史	2	
	日本文芸研究特講・祭りと芸能	2	

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目（通信学習時）
 (注) 「書道実技」は、通教テキストと指定市販本の 2 冊を使用します。
 (注) 表中の科目名の右側にある●は、当該コースにおいて履修が推奨される科目であることを示します。

選択科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
2 ~	中国文芸史	4	24 単位以上
	文学概論	4	
2 ~	日本文芸史 II	4	
	日本芸能史	4	
	日本美術史	4	
	西洋美術史	4	
3 ~	社会思想史	4	
	比較文学	4	
	書道史	2	
	書道実技	2	
	⑤ 1 ~	レポート作成基礎講座	
⑤ 2 ~	総合特講	2	
	情報学入門	2	
	総合外国語特講	2	
⑤ 3 ~	スポーツ特講	2	
	(他学部・他学科公開科目)	2	
M 1 ~	卒業論文作成講座	2	
	データサイエンス入門 A	2	
	データサイエンス入門 B	2	
	データサイエンス応用基礎 A	2	
	データサイエンス応用基礎 B	2	
⑤ 2 ~	データサイエンス応用基礎 C	2	

⑤はスクーリングのみの開講科目
 Mはメディアスクーリングのみの開講科目

4. 文学部日本文学科（芸能文化コース）

必修	20 単位
選択必修	20 単位以上
選択	24 単位以上（選択必修 20 単位を超えた単位を含む）
卒業論文（卒業論文第 1 次・第 2 次指導が必修）	8 単位
合計	82 単位

必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位	
1 ~	日本文芸学概論	4	20 単位	
	日本語学概論	4		
2 ~	日本文芸史 I	4		
	日本芸能史	4		
	日本美術史	4		
4	卒業論文	8		8 単位

選択必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
1 ~	日本文芸研究特講・上代	4	20 単位以上
	日本文芸研究特講・中古	4	
	日本文芸研究特講・中世	4	
	日本文芸研究特講・近世	4	
	日本文芸研究特講・近代	4	
	日本文芸研究特講・漢文	4	
2 ~	日本文芸研究特講・現代	4	
	日本文芸研究特講・言語	4	
⑤ 2 ~	日本文芸研究特講・韻文	2	
	日本文芸研究特講・演劇●	2	
	日本文芸研究特講・児童文芸	2	
	日本文芸研究特講・沖縄文芸●	2	
	日本文芸研究特講・特域	2	
	日本文芸研究特講・日本学	2	
	日本文芸研究特講・音楽芸能史●	2	
	日本文芸研究特講・祭りと芸能●	2	

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目（通信学習時）
 (注) 「書道実技」は、通教テキストと指定市販本の 2 冊を使用します。
 (注) 表中の科目名の右側にある●は、当該コースにおいて履修が推奨される科目であることを示します。

選択科目

履修学年	授業科目	構成単位	卒業所要単位
2 ~	中国文芸史	4	24 単位以上
	文学概論	4	
	日本文芸史 II	4	
	日本語史	4	
	日本文法論	4	
3 ~	西洋美術史	4	
	社会思想史	4	
	比較文学	4	
	書道史●	2	
	書道実技	2	
⑤ 1 ~	レポート作成基礎講座	2	
	総合特講	2	
	⑤ 2 ~	情報学入門	2
⑤ 2 ~	総合外国語特講	2	
	スポーツ特講	2	
	(他学部・他学科公開科目)	2	
⑤ 3 ~	卒業論文作成講座	2	
	M 1 ~	データサイエンス入門 A	2
M 1 ~	データサイエンス入門 B	2	
	データサイエンス応用基礎 A	2	
	データサイエンス応用基礎 B	2	
	データサイエンス応用基礎 C	2	

⑤はスクーリングのみの開講科目
 Mはメディアスクーリングのみの開講科目

5. 文学部史学科

必修	16 単位
スクーリング選択必修 (4 科目)	8 単位
選択 (日本・東洋・西洋の各分野から最低 1 科目)	50 単位
卒業論文 (卒業論文第 1 次～第 3 次指導が必修)	8 単位
合計	82 単位

必修科目

履修学年	授業科目	右頁参照	構成単位	卒業所要単位
1～	日本史概説	c.	4	16 単位
2～	史学概論		4	
	西洋史概説	c.	4	
	東洋史概説	c.	4	
4	卒業論文	b.	8	8 単位

スクーリング選択必修科目

履修学年	授業科目	右頁参照	構成単位	卒業所要単位
1～	日本史概説	c.	2	8 単位
2～	西洋史概説	c.	2	
	東洋史概説	c.	2	
3～	史学演習 1	e. f.	2	
	史学演習 2	d. e. f.	2	

選択科目

分野	履修学年	授業科目	右頁参照	構成単位	卒業所要単位	
日本史の分野	3～	日本美術史		4	1 科目以上	
		日本近代史		4		
		日本近世史		4		
		日本古代史		4		
		日本中世史		4		
		日本法制史		4		
		日本史特講 (社会史)		4		
		日本史特講 (地域社会史)		4		
		日本史特講 (日本思想史)		4		
		日本史特講 (日本仏教史)		4		
		日本古文書学		4		
		東洋史の分野	3～	東洋美術史		
東洋史特講 (中国経済史)				4		
日本文芸研究特講・漢文				4		
東洋史特講 (中国思想史)				4		
東洋史特講 (中国近世史)				4		
東洋史特講 (東南アジア史)				4		
西洋史の分野	3～	経済史 A		2	1 科目以上	
		経済史 B		2		
		西洋史特講 (西洋哲学史)		4		
		西洋美術史		4		
		西洋史特講 (キリスト教史)		4		
		西洋史特講 (ロシア史 I)		2		
	2～	西洋史特講 (ロシア史 II)		2		
		西洋史特講 (アメリカ史)		4		
		2～	日本考古学			4
		3～	日本史特講 (対外関係史)			4
S	1～	文化地理学		4	50 単位	
		経済地理学		4		
	2～	総合特講	h.	2		
		歴史資料学 1～6	i.	2		
		情報学入門	m.	2		
	3～	総合外国語特講		2		
スポーツ特講 (他学部・他学科公開科目)		j. k.	2			
M	1～	史学演習 3	e. f.	2		
		史学演習 4	e. f.	2		
		データサイエンス入門 A		2		
		データサイエンス入門 B		2		
1～	データサイエンス応用基礎 A		2			
	データサイエンス応用基礎 B		2			
	データサイエンス応用基礎 C		2			

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目 (通信学習時)

⑤はスクーリングのみの開講科目
 Mはメディアスクーリングのみの開講科目

教育課程表 (カリキュラム表) の注意点

- 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません。また、原則として科目構成単位を超えて履修することはできず卒業所要単位にもなりません。
- 「卒業論文」を受講するには事前の指導が必要です (卒業論文第 1 次～第 3 次指導)。詳細は [▶ p.74](#) を参照してください。
- 「日本史概説」「西洋史概説」「東洋史概説」において、最初にスクーリングで修得した単位 (2 単位) はスクーリング選択必修科目の単位となります。その場合、卒業には同名の必修科目 (4 単位) と合わせて 6 単位の修得が必要となります。
 ※ 上記 3 科目のうち少なくとも 2 科目は、必修科目とスクーリング選択必修科目を合わせて 6 単位修得しなければなりません。
 ※ スクーリングでの修得がスクーリング選択必修科目の科目構成単位 (2 単位) を超えた場合は、必修科目の同名科目に算入します。
 ※ 必修科目「日本史概説」「西洋史概説」「東洋史概説」(各 4 単位) において 2 単位分の単位修得試験を受験するには、スクーリングで 2 回 4 単位修得していることが条件です (スクーリングで 3 回 6 単位修得することも可能です)。
- スクーリング選択必修科目の 5 科目をすべて修得した場合、卒業判定時に「史学演習 2」を選択科目として卒業所要単位に算入します。
- 「史学演習」は 4 回 8 単位まで卒業所要単位となります (1 回は必修)。1～4 の数字は授業内容にかかわらず修得順に付番されます。
- スクーリング科目の「史学演習」には日本・東洋・西洋の 3 分野があり、受講資格としてスクーリング申し込み時までに同分野の概説科目 (必修・選択必修は問わない) を 4 単位修得済みであることが必要です。
 例: 「史学演習 (日本)」であれば、「日本史概説」を 4 単位修得済みでなければ受講資格がありません。
- 選択科目は日本・東洋・西洋の各分野から 1 科目以上、計 50 単位の修得が卒業要件です。
- 「総合特講」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「歴史資料学」は 8 回 12 単位まで卒業所要単位として履修できます。1～6 の数字は授業内容にかかわらず修得順に付番されます。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。「公開科目」の開講は、「法政通信」などで発表します (主に地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります)。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は、開講科目によって履修学年・履修上限回数異なる場合があります。詳細は「法政通信」を参照してください。
- 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、[▶ p.60](#) 「3 2013 年度からの変更点 (抜粋)」を参照してください。
- 2023 年度より「情報科学実習」が「情報学入門」に名称変更しました。
 ※カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーは以下の Web サイトから確認できます。
<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/history/subject/cultural.html>



6. 文学部地理学科

必修	スクーリング必修を除く	12 単位
スクーリング必修		6 単位
選択必修	「人文」「自然」から各 2 科目 8 単位以上 「地誌・その他」から 16 単位以上	36 単位以上
選択必修	36 単位を超えた単位	12 単位以上
選択		
卒業論文	卒業論文第 1 次～第 3 次指導が必修	8 単位
合計		82 単位

必修科目

履修学年	授業科目	右頁参照	構成単位	卒業所要単位
1～	人文地理学概論 (1)		2	12 単位
	自然地理学概論 (1)		2	
	地理調査法 (人文編)		4	
	地理調査法 (自然編)		4	
4	卒業論文	c.	8	8 単位

選択必修科目

履修学年	授業科目	右頁参照	構成単位	卒業所要単位
1～	人文地理学概論 (2)		2	2 科目 8 単位以上
	人文地理学演習 ⑤	h.	2	
	経済地理学		4	
	人文地理学 (都市)		4	
	人文地理学 (農業)		4	
	人文地理学特講 (地域・産業・生活)		4	
3～	文化地理学		4	2 科目 8 単位以上
	歴史地理学		4	
	自然地理学概論 (2)		2	
	地学概論		4	
2～	自然地理学演習 ⑤	h.	2	2 科目 8 単位以上
	自然地理学 (地形)		4	
	自然地理学 (生物・土壌)		4	
	自然地理学 (気候・気象)		4	
3～	自然地理学 (海洋・陸水)		4	36 単位以上
	地誌学概論		4	
	日本地誌 (1) (自然編)		4	
	日本地誌 (2) (人文編)		4	
2～	地誌学特講 ⑤	g.	2	16 単位以上
	世界地誌 (1) (アジア)		4	
	世界地誌 (2) (アメリカ・大洋州)		4	
	世界地誌 (3) (欧・アフリカ)		4	
	地図学		4	
	測量学及び測量実習 (1) ⑤		2	
	測量学及び測量実習 (2) ⑤		2	
	写真・読図演習 (1) ⑤		2	
	写真・読図演習 (2) ⑤		2	
	地理情報システム (GIS) (1) ⑤		2	
地理情報システム (GIS) (2) ⑤		2		

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目 (通信学習時)

スクーリング必修科目

履修学年	授業科目	右頁参照	構成単位	卒業所要単位
3～	現地研究	d. e.	1	6 単位 (現地研究 2 回 2 単位を含む)
	人文地理学演習	h.	2	
	自然地理学演習	h.	2	

選択科目

分野	履修学年	授業科目	右頁参照	構成単位	卒業所要単位
3～		史学概論		4	12 単位以上
		日本史概説		4	
		東洋史概説		4	
		西洋史概説		4	
		社会経済学 A		2	
		社会経済学 B		2	
		日本史特講 (日本仏教史)		4	
		日本史特講 (日本思想史)		4	
		東洋史特講 (中国現代史)		4	
		西洋史特講 (西洋哲学史)		4	
		西洋史特講 (キリスト教史)		4	
		西洋史特講 (ロシア史 II)		2	
1～		総合特講	j.	2	
		人文地理学特講	i.	2	
2～		自然地理学特講	i.	2	
		情報学入門	n.	2	
		総合外国語特講		2	
		スポーツ特講		2	
		(他学部・他学科公開科目)	k. l.	2	
		地理特講 (地誌学特講)	g.	2	
g.～i.注		地理特講 (人文地理学演習)	h.	2	
		地理特講 (自然地理学演習)	h.	2	
M	1～	地域特講 (現地研究)	d. f.	1	
		データサイエンス入門 A		2	
		データサイエンス入門 B		2	
		データサイエンス応用基礎 A		2	
		データサイエンス応用基礎 B		2	
データサイエンス応用基礎 C		2			

⑤はスクーリングのみの開講科目
Mはメディアスクーリングのみの開講科目

教育課程表 (カリキュラム表) の注意点

- 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません。また、原則として科目構成単位を超えて履修することはできず卒業所要単位にもなりません。
- 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴い、2013 年 3 月 31 日以前に入学した学生 (2013 年 4 月 1 日以降に復籍、再入学した学生も含む) は卒業判定時に「選択必修科目 (地誌・その他)」分野の修得単位数が 16 単位未満の場合、「選択必修科目 (人文)」分野、「選択必修科目 (自然)」分野のそれぞれ卒業要件 (8 単位) を超えて修得した単位を「選択必修科目 (地誌・その他)」分野に算入します。
※上記対象学生も「選択必修科目 (地誌・その他)」分野の単位を 8 単位以上構成単位を満たして修得する必要があります。
- 「卒業論文」を受講するには事前の指導が必要です (卒業論文第 1 次～第 3 次指導)。詳細は [p.74](#) を参照してください。
- 「現地研究」は、2泊3日の校外学習です。必修単位 (2回2単位) を超えて修得した場合、選択科目「地域特講 (現地研究)」に 2 回 2 単位まで卒業所要単位として算入します。
- 2019 年度より「現地研究 (自然)」「現地研究 (人文)」が「現地研究」に名称変更しました。2019 年 3 月 31 日時点で「現地研究 (自然)」または「現地研究 (人文)」を 1 単位のみ修得の場合は、以下のいずれかにより「現地研究」の卒業要件を充足したものとします。
(1) 「現地研究 (人文)」1 単位 + 「現地研究」1 単位
(2) 「現地研究 (自然)」1 単位 + 「現地研究」1 単位
- 2019 年度より「地域特講 (現地研究 (自然))」「地域特講 (現地研究 (人文))」が「地域特講 (現地研究)」に名称変更しました。
- 「地誌学特講」については、1 回 2 単位を超えて修得した場合、選択科目「地理特講 (地誌学特講)」に卒業所要単位として算入します。
- 「人文地理学演習」「自然地理学演習」については、各科目 1 回 2 単位を超えて修得した場合は選択必修科目に、各科目 2 回 4 単位を超えて修得した場合は、選択科目「地理特講 (人文地理学演習)」または「地理特講 (自然地理学演習)」に卒業所要単位として算入します。
- 「人文地理学特講」「自然地理学特講」は科目にかかわらず合計 4 単位までを選択科目として卒業所要単位に算入します。2 単位ずつ修得するか片方だけ 2 回履修し、4 単位修得することもできます。また、どちらか一方 2 単位のままで卒業所要単位として算入します。
※「履修・成績通知書」では、2008 年度までに上記 2 科目を修得した場合にはどちらも上記 2 科目は「地理学特講 (S)」として記載されています。2009 年度以降に修得した場合にはそれぞれ「人文地理学特講 (S)」「自然地理学特講 (S)」として記載されています。
- 「総合特講」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。「公開科目」の開講は、「法政通信」などで発表します (主に地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります)。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は、開講科目によって履修学年・履修上限回数異なる場合があります。詳細は「法政通信」を参照してください。
- 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、[p.60](#) 「3 2013 年度からの変更点 (抜粋)」を参照してください。
- 2023 年度より「情報科学実習」が「情報学入門」に名称変更しました。
※カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーは以下の Web サイトから確認できます。
<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/geography/subject/cultural.html>



7. 経済学部経済学科

選択必修	24 単位以上	82 単位
選択	卒業論文を含む	
合計		82 単位

選択必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	
1 ~	社会経済学 A	2	
	社会経済学 B	2	
	統計学 A	2	
	統計学 B	2	
	経済史 A	2	
	経済史 B	2	
	簿記 I	2	
簿記 II	2		
2 ~	財政学 A	2	
	財政学 B	2	
	金融論 A	2	
	金融論 B	2	
3 ~	経済政策論 A	2	
	経済政策論 B	2	
M	1 ~	経済学入門 A	2
		経済学入門 B	2
	2 ~	ミクロ経済学 A	2
		ミクロ経済学 B	2
		マクロ経済学 A	2
		マクロ経済学 B	2
		国際経済論 A	2
		国際経済論 B	2
		環境経済論 A	2
		環境経済論 B	2
		開発経済入門 A	2
		開発経済入門 B	2
		社会保障論 A	2
		社会保障論 B	2
3 ~	国際貿易論 A	2	
	国際貿易論 B	2	

⑤はスクーリングのみの開講科目
Mはメディアスクーリングのみの開講科目

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目 (通信学習時)

選択科目

履修学年	授業科目	構成単位	
1 ~	経営学総論 I	2	
	経営学総論 II	2	
2 ~	簿記 III	2	
	簿記 IV	2	
3 ~	日本経済論 A	2	
	日本経済論 B	2	
	財務会計論 I	2	
	財務会計論 II	2	
	原価計算論 I	2	
	原価計算論 II	2	
	管理会計論 I	2	
	管理会計論 II	2	
	国際金融論 I	2	
	国際金融論 II	2	
	憲法	4	
	民法一部 (総則・物権法)	4	
	民法二部 (債権法)	4	
	商法総則・商行為法	4	
会社法	4		
手形法・小切手法	4		
労働法	4		
社会経済思想史	4		
経済地理	4		
4	卒業論文	6	
⑤	1 ~	総合特講	2
		マーケティング論 I	2
	2 ~	マーケティング論 II	2
		経済学特講	2
		経営学特講	2
		コンピュータ入門	2
		総合外国語特講	2
		スポーツ特講	2
		(他学部・他学科公開科目)	2
		演習	2
M	1 ~	データサイエンス入門 A	2
		データサイエンス入門 B	2
		データサイエンス応用基礎 A	2
		データサイエンス応用基礎 B	2
	データサイエンス応用基礎 C	2	
	2 ~	会計学入門 I	2
		会計学入門 II	2
3 ~	ビジネス英語 A	2	
	ビジネス英語 B	2	
	現代ファイナンス A	2	
	現代ファイナンス B	2	
	労働経済論 A	2	
	労働経済論 B	2	

教育課程表 (カリキュラム表) の注意点

- 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません。また、原則として科目構成単位を超えて履修することはできず卒業所要単位にもなりません。
- 選択必修科目を、卒業要件の 24 単位を超えて修得した場合は、選択科目の卒業所要単位として算入します。
- 「卒業論文」を受講する場合は事前の指導が必要です (卒業論文計画書指導、卒業論文中間報告書指導)。詳細は [▶ p.79](#) を参照してください。
- 「経済学特講」は 4 回 8 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「経営学特講」は 4 回 8 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「総合特講」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。「公開科目」の開講は、「法政通信」などで発表します (主に地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります)。
- 「演習」は 2012 年度以前設置科目「経済学演習」を含めて 2 回 4 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 現在開講している科目であっても将来的にメディアスクーリングのみで開講する場合があります。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は、開講科目によって履修学年・履修上限回数異なる場合があります。詳細は「法政通信」を参照してください。
- 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、[▶ p.60](#) 「3 2013 年度からの変更点 (抜粋)」を参照してください。
- 「マーケティング論 I」、「マーケティング論 II」は、2025 年度はスクーリングで開講します。

※カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーは以下の Web サイトから確認できます。

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/economics/subject/cultural.html>



8. 経済学部商業学科

選択必修	20 単位以上	82 単位
選択	卒業論文を含む	
合計	82 単位	

選択必修科目

履修学年	授業科目	構成単位	
1 ~	簿記 I	2	
	簿記 II	2	
	経営学総論 I	2	
	経営学総論 II	2	
2 ~	経営管理論 I	2	
	経営管理論 II	2	
	金融論 I	2	
	金融論 II	2	
	簿記 III	2	
⑤ 2 ~	簿記 IV	2	
	マーケティング論 I	2	
⑤ 2 ~	マーケティング論 II	2	
	⑤ 1 ~	経済学入門 I	2
⑤ 1 ~	経済学入門 II	2	
	統計学入門	2	
	⑤ 2 ~	会計学入門 I	2
	⑤ 2 ~	会計学入門 II	2
⑤ 2 ~	経営戦略論 I	2	
	経営戦略論 II	2	

選択科目

履修学年	授業科目	構成単位
3 ~	人的資源管理論 I	2
	人的資源管理論 II	2
	財務会計論 I	2
	財務会計論 II	2
	原価計算論 I	2
	原価計算論 II	2
	管理会計論 I	2
	管理会計論 II	2
	監査論 I	2
	監査論 II	2
	税務会計 I	2
	税務会計 II	2
	経営分析論 I	2
	経営分析論 II	2
	国際金融論 I	2
	国際金融論 II	2
	社会経済学 I	2
	社会経済学 II	2
	経済史 I	2
	経済史 II	2
統計学 I	2	
統計学 II	2	

⑤はスクーリングのみの開講科目
 ⑥はメディアスクーリングのみの開講科目

履修学年	授業科目	構成単位	
3 ~	財政学 I	2	
	財政学 II	2	
	経済政策論 I	2	
	経済政策論 II	2	
	日本経済論 I	2	
	日本経済論 II	2	
	憲法	4	
	民法一部 (総則・物権法)	4	
	民法二部 (債権法)	4	
	商法総則・商行為法	4	
	会社法	4	
	手形法・小切手法	4	
	労働法	4	
	社会思想史	4	
④ 4	経済地理	4	
④ 4	卒業論文	6	
⑤ 1 ~	総合特講	2	
	経済学特講	2	
	経営学特講	2	
	⑤ 2 ~	情報学入門	2
	⑤ 2 ~	総合外国語特講	2
⑤ 2 ~	スポーツ特講	2	
	(他学部・他学科公開科目)	2	
	演習	2	
⑤ 3 ~	消費者行動論	2	
	広告論	2	
⑤ 1 ~	データサイエンス入門 A	2	
	データサイエンス入門 B	2	
	データサイエンス応用基礎 A	2	
	データサイエンス応用基礎 B	2	
	データサイエンス応用基礎 C	2	
	⑤ 2 ~	情報学基礎	2
⑤ 2 ~	経営組織論	2	
	事業創造論	2	
	会計情報論 I	2	
	会計情報論 II	2	
	⑤ 3 ~	日本経営論	2
	⑤ 3 ~	ファイナンス論 I	2
	⑤ 3 ~	ファイナンス論 II	2
	⑤ 3 ~	現代経済学 I	2
	⑤ 3 ~	現代経済学 II	2
	⑤ 3 ~	マクロ経済学 I	2
	⑤ 3 ~	マクロ経済学 II	2
	⑤ 3 ~	国際経済論 I	2
⑤ 3 ~	国際経済論 II	2	
⑤ 3 ~	環境経済論 I	2	
⑤ 3 ~	環境経済論 II	2	

(注) 表中の色文字は通教テキスト使用科目 (通信学習時)

教育課程表 (カリキュラム表) の注意点

- 科目構成単位を満たして修得しなければ卒業所要単位にはなりません。また、原則として科目構成単位を超えて履修することはできず卒業所要単位にもなりません。
- 選択必修科目を、卒業要件の 20 単位を超えて修得した場合は、選択科目の卒業所要単位として算入します。
- 「卒業論文」を受講する場合は、事前の指導が必要です (卒業論文計画書指導、卒業論文中間報告書指導)。詳細は p.79 を参照してください。
- 「経済学特講」は 4 回 8 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「経営学特講」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「総合特講」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は 8 回 16 単位まで卒業所要単位として履修できます。「公開科目」の開講は、「法政通信」などで発表します (主に地方・メディア・週末・ゴールデンウィークスクーリングでの開講となります)。
- 「演習」は 2012 年度以前設置科目「経営学演習」を含めて 2 回 4 単位まで卒業所要単位として履修できます。
- 現在開講している科目であっても将来的にメディアスクーリングのみで開講する場合があります。
- 「(他学部・他学科公開科目)」は、開講科目によって履修学年・履修上限回数異なる場合があります。詳細は「法政通信」を参照してください。
- 2013 年 4 月からのカリキュラム変更に伴う措置については、p.60 「3 2013 年度からの変更点 (抜粋)」を参照してください。
- 2023 年度より「情報科学実習」が「情報学入門」に名称変更しました。
- 2025 年度より「会計情報論 II」、「情報学基礎」が新設されました。
- 「マーケティング論 I」、「マーケティング論 II」、「消費者行動論」、「広告論」は、2025 年度はスクーリングで開講します。

※カリキュラム・マップ、カリキュラム・ツリーは以下の Web サイトから確認できます。

<https://www.tsukyo.hosei.ac.jp/faculty/business/subject/cultural.html>

